

学校だより

学校教育目標

「豊かな心を持ち、相手を思いやり、ともに「生きる力」を身に付ける児童の育成」



こうとく



平成30年度学力特集号
平成30年10月26日
北九州市立広徳小学校
校長 花田 博之

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

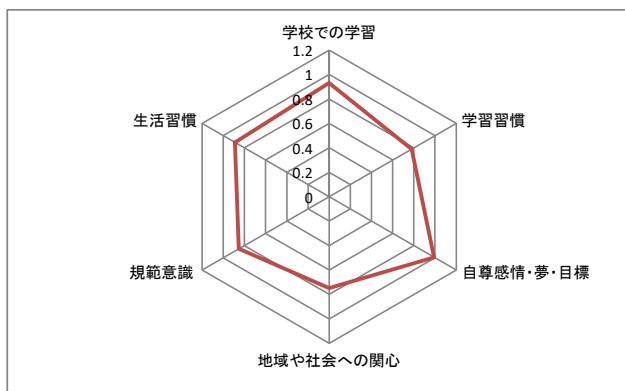
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	漢字を正しく書いたり読んだりすることの正答率が上昇している。話すこと・聞くこと、書くこと、読むことにおいては全国平均を上回った。B問題に比べて正答数は多い。目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして書くことや文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを読むことに課題がある。	同程度
国語B	計画的に話し合うために、司会の役割について捉えることや目的に応じて複数の本を読むことは全国平均を上回った。長い文章を注意深く読むことや話している意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることに課題がある。また、複数の条件から自分の考えを明確にして書くことや相手の意図を捉えて聞き、内容の中心を詳しく書くことに課題がある。	下回っている
算数A	単純な計算問題がなく、記述式で回答する問題が多い。問題文を正確に読み取ったり、必要な言葉や数式を正確に記述できていないことが全国平均を下回った大きな課題であった。円周率の意味について正しく理解していた。また、百分率を求める問題の正答率が全国平均より高かった。	下回っている。
算数B	問題文章が長文の為、必要な情報を解釈して自分の考えを述べたり、立式した根拠を記述する出題に苦手意識が高い。計算技能に加え、長文の読解力が求められる。問題文から規則性を解釈し、それを基に条件に合う答えを選択する問題では、全国平均とほぼ同等であった。	下回っている。
理科	理科の用語や意味を正しく理解する必要がある。濾過の方法など、実験の器具の細やかな操作方法についても丁寧に押さえ、自分の考えを文章にまとめる力をつけることが求められている。また、考察する際に、問題に対応した視点で分析し、結果に基づいて端的に文章でまとめる力をつけていく必要がある。	下回っている。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

学校生活の中で、一人一役の責任をもった委員会活動や係活動を充実して行っていくことで、上級生としての自覚をもち、将来への夢や希望をしっかりともっている児童が多い。学習習慣については、家庭での学習時間が短く、宿題以外でも自主学習ノートに取り組んでいるが、まだ時間的には、十分ではない。国語、算数、理科ともに、長文での読解に課題があることから、毎日の家庭学習においても、音読や読書を積極的に取り組む必要がある。また、地域の行事への参加や興味、関心が低い結果を受け、学校生活の中での地域の方々との交流をきっかけとした地域行事の参加を呼びかけようとした。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

学力定着サポートシステム「確認テスト」を実施し、基礎的、基本的内容の定着がなされるまで、繰り返し丁寧な指導を行っていく。毎週、広徳ぐんぐん「計算タイム」、漢字検定試験での当該学年の漢字の定着を目指し全校で取り組む。また、学習での課題を確実にその日のうちに解決できるような学習指導の工夫を行っていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習の回収率を全学年で100%を目指すとともに、自主学習ノートマニュアルの配布や、自主学習のよいノートモデルを紹介していくなど、自主学習に力を注ぐことができるような環境作りを整備する。また、各学年において生活科や総合学習の時間に地域の方との積極的な関りをきっかけとした地域活動への参加を呼び掛ける。